

第2回 苫小牧市総合計画市民懇話会 議事録要旨

- 【日 時】 平成29年2月7日（火）18:00～19:30
- 【場 所】 苫小牧市役所9階 議会大会議室
- 【出席者】 若林会長、橋本副会長、杉立委員、丹治委員、公地委員、織田委員、井上委員、北川委員、小林委員、奥村委員、佐藤委員
- 【事務局】 苫小牧市 総合政策部 富田部長、政策推進室 町田室長、政策推進課 小名課長、阿部課長補佐、川合主査

議 事 内 容

1 開会

2 議題

(1) まちづくりに関する意見・提案の取まとめ結果について

(2) 意見交換

●会長

私の提案は、「くらし・環境」の点で、苫小牧市が東西に長いということで、西部からの利便性が悪いという声をよく聞く。例えば、錦岡からイオンまで行きたいがどうすればよいかなど、交通の利便性をよくするという提案である。特に移動手段が限られる高齢者にとっては重要である。

また、「福祉・保健・医療」の面では、安心して暮らしていける福祉・医療を提案した。苫小牧市の福祉環境は充実していると思うが、他の自治体より優れているということを求めたい。例えば、障がい者が安心して生活できる福祉の充実や介護保険でのヘルパーとの連携による医療の充実というところも含めて、苫小牧市は他の自治体より優れているということを求めたい。

「教育・文化」では、基礎教育小・中・高12年だが、札幌では中高一貫、あるいは大学まで用意されているところもある。苫小牧でも、そうした教育が受けられるところがあってもよいのではないかという提案である。

●委員

事務局の説明を聞くと、「くらし・環境」が11件で最も多く、その次が「福祉・保健・

医療」8件、「市政運営」は6件で、「教育・文化」「都市基盤」「産業」は4件と少ない印象である。

私は産業分野からの参加であるが、あえてそれ以外の分野から提案した。都市基盤も行政運営も、産業がしっかりして、税収が増えることが重要で、人口減少もかかわってくる。苫小牧のまちづくりで大切なことは、産業が潤い、地域が活性化することだと思う。働く場所がなければ若者は出て行ってしまう。どうしたら若い世代に残ってもらえるのが重要。人口が減少する中で若者が地元にいるという環境づくりが、今後のまちづくりの上では大切なことだと思う。高齢者と若者が共有して互いに暮らしていけるような地域づくりが大切だと思う。住みやすい雰囲気も大切。現状は札幌に人がとられている。札幌との交通も便利になって、札幌が通勤圏になっており、苫小牧に住んで札幌で働いてもよいが、若者はなぜ札幌に行くのか。働く場が充実しているというのが大きいだろう。若者が仕事のしやすい環境づくりを考えていく必要がある。

また、医療関係は、日々変化しプラスになっていると思う。

苫小牧に若者を残せる環境、若者が中心になれるまちを目指すのが第一だと思う。特にスケート祭りや港祭りなどイベントの際は、20代から40代まで非常に多くの若者が集まる。そういう人たちが、今後のまちづくりを担っていく。

●委員

「産業」の点から検討してみた。市民アンケート結果を見ると、満足度と重要度の分析で、「いきいきと働くことができる場があること」が、重要度が高いのに対し満足度が産業分野の中で最低である。今回の提案の中でも、「いきいきと働くことができる場を作っていく」ということがあげられている。働くということは生活の基盤を作ること。この点が満足していないというのは、苫小牧にそのような場がないとされているのであれば、市外に出ていくのだろう。「いきいきと働くことができる場」「自分の望む仕事ができる場」を増やしていくということが重要だと思う。

また、人口減少に対する施策のあり方では、人手不足では、若手社員が定着せず離れていくのも多いと感じている。企業も良い時もあれば悪い時もあるが、中間層がいないと感じており、他社からも同様の意見をよく聞く。若手社員を育てていく部分も、行政で支援してほしい。

「いきいきと働くことができる場」がもっと多くなれば、まちも活気が出てきて、様々な活動も活発になると思う。

●委員

2月3日に、連合から雇用拡大、医療、子育て支援に関し、ハローワークと苫小牧市に要請書を提出した。ハローワークとの話の中では、今年の3月に卒業する就職を希望する高校生の97～98%が、就職先が決まっているとのこと。しかし、3年以内でその会社を辞める子も多いとのこと。そうしたことから、就職前の子どもに就職先の企業で仕事の体験をしてもらうなどで離職率を下げる取り組みをしていきたいということである。なかなか安定した仕事がない中で、どうしても共働きの若い夫婦世帯では、子育てに専念するのは難しいと感じているという実態がある。連合としても、その中で安定した仕事に就けるように、自治体や関係機関の支援をいただきたいと思っている。

また、ハローワークの話では、進路指導の教員が苫小牧の企業をあまり知らないということも話していた。苫小牧には、大企業でなくても、ものづくりの仕事があり、そうしたことを子どもたちに周知する必要がある、自治体、関係機関、経済団体等がアピールして、子どもたちに苫小牧で働いてもらうようなことを考えていく必要がある。個人的には、永福町の町内会活動に携わっており、避難訓練・給水訓練にも参加している。永福町では、津波の際には糸井の跨線橋を越えて、しらかば温泉湯の駐車場の了承があればその2階、了承がなければ日新小学校が避難場所となっている。実際に歩くと距離があり大変である。近い場所に一時的な避難所があると、高齢者も安心できる。

●委員

地域総合福祉推進（ケアネット活動）について提案した。最近の新聞に、苫小牧市の高齢化率が26.57%と出ていた。あと5年もすると、いわゆる団塊の世代が後期高齢者になる。地域で民生委員が、見守り、相談、安否確認等を行っているが、民生委員も高齢化しているが、新たになり手もないことから、75歳を過ぎても委員として活動してもらっている。

そうした状況から、行政、専門職、町内会、民生委員、包括支援センターなどが地域でチームを組んで、一人暮らしの高齢者が9月に実施している高齢者世帯調査では、27年度の一人暮らしの高齢者が6,909人、調査不能が955人、調査拒否が84人、夫婦2人世帯のうち要保護世帯が275世帯となっており、約8,000人が一人暮らしで、その中には認知症の人もいる。

そういう人たちが今の場所で安心安全に暮らせるためにどうするか。経費をかけないという意味ではボランティアで見守り支援をしていくのが良いのではないか。地域のチーム（3～5人）で、役割分担をしながら見守り支援をしていく。専門的な相談について

は、行政や包括支援センターが担うというのが良いのではないか。

●委員

私は車椅子を使用しているが、お尻の褥瘡（じょくそう・いわゆる床擦れ）を治せる病院が苫小牧市内に1か所しかない。お尻の褥瘡は命取りになる。治療には半年程度の入院が必要、再発すると1年程度入院となるが、1か所しかないので混んでいて入院できない。もう少し形成外科の専門の医師がいると助かる。車椅子生活は褥瘡になりやすい。

ときわ町に住んでいて、目の前に新ときわスケートセンターと、ときわスケートセンターがある。その屋上が避難場所だと聞いているが、屋上に上がる設備が整備されていない。早く整備してほしい。

●委員

地域包括ケアについての市民理解・広報・啓発・普及について提案した。専門家だけでは地域の福祉の向上は難しい。今年度行われている「みんなでふくし大作戦!!2016」のような活動を継続していく必要がある。活動を通じてこれまで関心のなかった人に、関心を持ってもらえる機会を継続していくことが必要ではないか。

また、福祉・保健・医療に関する相談窓口の充実という提案があり、包括支援センターについて、まだ十分市民に浸透していないと感じる。また、相談の窓口はあるが、細分化されすぎていて、どこに相談に行ってもよいかわからないという人が多いのかもしれない。市役所の総合福祉課にワンストップの相談窓口があるが、その拡充も含めて、そこで一時的に相談を受け付け、適切な相談ができる窓口へ紹介していくという仕組みをつくる必要があると思う。

福祉施設やサービスの担い手が定着しない。何人の人を担当したからその分報酬に上乘せがあるという制度ではないし、興味があるが長続きがしない。働きやすい場所を作り、興味がある人に苫小牧に来てもらえるような仕組みがあると良いと思う。

●委員

医師会で看護師の養成事業を行っている。若者の受験者が毎年いるが、卒業後ほとんどが苫小牧市を離れる。3年過ぎて1人前になると9割程度、札幌に行く。流出を防ごうと試行していて、ここ1・2年、約半分は定着しているが、何とか地元の子を採用して地元で定着させたい。

医療に関して、10年前から見ると開業医の数が2割減少している。今後10年を考えると、開業医の数がさらに減少していくと考えられる。高齢化が進んでいく中で医療資源が減少していくということは緊急の事態であると感じている。そうした状況から、王子、市立、日翔、同樹会などの病院の勤務医にも協力いただいて地域医療を守っていくという働きかけをしている。2月1日に苫小牧市の委託事業で、旭町の医師会館に「医療介護連携センター」を開設した。包括支援センターと連携しながら、医療と福祉の垣根をとり、開業医に在宅医療を手掛けていただきたいという働きかけをしている。地域にあった在宅医療を含めた健康管理ができる仕組みを作っていきたい。

●委員

市民生活の点から発言する。人口減少、高齢化が非常に速いスピードで進展していくということで、総合計画の全ての分野でこのことが関わってくると思う。消費者協会も消費者被害防止ネットワークを作っているが、どちらかと言うと高齢者の被害防止が大きい。それを担うのが民生委員や包括支援センターの方で、福祉の分野と大きく関わっている。このことも民生委員や包括支援センターの方をお願いするのかと、じくじたる思いがする。日ごろの活動から高齢者や障がい者の被害を見つけていく必要があり、縦割りではなく、全体をとおした見守り活動、ケアネット活動といったものと、相互の縦割りを外して行っていく必要があると感じている。

今年の冬の除雪体制を見ると、ツルツル道路が生活を困難にさせており、コンパクトシティという考え方も入れていく必要があると思っている。特に高齢者は街なかに住んだ方が良いと思う。例えば、サービス付き高齢者住宅を作って高齢者に住む場合、費用が掛かることから、自宅を若い人に貸したり、売却したりするなどして資金を確保するという考え方も必要だと思う。

JRの苫小牧―札幌間のS切符が廃止されて不便を感じている。日高線の問題もあり、広域的な交通の確保を考えていく必要がある。また中央インターができるとう市の交通の流れが変わる可能性があり、総合計画の中でどう盛り込んでいくかという点は重要だと思う。

苫小牧駒澤大学が別の学校法人に移管され、さらに現苫小牧駒澤大学キャンパスに白老町にある高校の移設を検討との報道もあった。こうした変化も見ていく必要があると感じている。

安心安全な生活が確保されるまちづくりをしていくうえで、コンパクトシティにしていこうと、東西に長いから中央に集めれば良いとなれば、今住んでいる人たちはどうな

るのかと不安になることも多いと思う。その際は、市民の意見をよく聞いて、安心できるように取り組んでほしい。例えば、中心を1つでなく3つや4つにするなど、市民が意見を十分に言える場を作る必要がある。

●委員

駅前の衰退を憂いており、少しでも駅周辺の活気が戻ってほしい。イオンモール周辺ばかりが活性化しているが、車がなければ買い物に不便である。

交流人口が増えれば雇用も増えるのではないかという観点から、フィルムコミッションや案内の多言語表示を提案した。

自分は病气（潰瘍性大腸炎（指定難病））を抱えており、現在は札幌の専門病院に通院して、現状を維持している。できれば苫小牧に専門病院があると助かる。

イオン周辺以上に札幌は魅力がある。苫小牧から札幌に通勤通学もできるが、札幌の環境が良いとなると札幌に移ってしまうのではないか。苫小牧市内がもう少し充実すれば、流出も減るのではないかと思う。

●委員

10年前、新千歳空港に近くフェリー港があり、旅行をするのに便利だろうといった理由で、夫の定年退職を機に室蘭から越してきて、その恩恵は十分享受してきた。

元気な高齢者にとって苫小牧市は非常に魅力的である。若い人の定住をあげているが、60歳を過ぎた人たちに移り住んでもらって苫小牧を活性化するという視点があっても良いのではないかと思う。そうなれば、その子供が孫を連れてきて、良い街だと感じれば、親が高齢になった時に移ってくるかもしれないと思う。そう考えると、若い人を引き留めようとするより、60代・70代でも良いと思う。

交通に関して、新千歳空港に午後8時半以降に着くと、苫小牧に来るバスはない。秋田空港では20kmまで1,500円の事前予約制乗合タクシーがあり、そうしたものと助かる。

マンションを建ててコンパクトシティ化してはどうか。高齢になったら集合住宅に入っていていただき、隣近所にも元気な高齢者がいるという暮らし方も良いのではないか。高齢者がバラバラに住んでいては、その人たちの見守りも大変である。

義務教育学校の一貫校を提案した。小学校高学年と中学校の連携が大切になるので、可能ならば実験的に取り組んでほしい。また、苫東に大学など学園都市を作ればよいのではないか。

●会長

事務局においては、これらの意見を総合計画の策定に反映してもらえればと思う。

また、委員の皆様も他に思いついた意見提案等があれば、事務局に連絡して欲しい。

●事務局

先ほどの委員の発言の中で、「ときわスケートセンター」が避難場所とあったが、これについて「ときわスケートセンター」の屋上に避難という意見を言っている地域の人はいりますが、市としては一切そのような考えはなく、あくまでもときわ町内会の方は、津波の際にはバイパスの方に避難することとしている。

また、皆様のご意見の中に「コンパクトシティ化」の話があったが、現在、都市計画マスタープランの策定作業を進めている。都市計画マスタープランについても、アンケート調査を実施、審議会を設置した。この後、各地域に職員が出向いて地域の方の意見を聞く場を設定する予定となっている。町内会単位、いくつかの町内会がまとまって意見を聞く場になるかと思うが、その際にご案内するので、ぜひ参加して意見してほしい。

3 その他

<事務局より次回の開催について説明>

4 閉会